

「喜寿を迎えた山形事務所」
(山形商工会議所「商工月報」2022年9月号掲載文)

日本銀行
山形事務所長
御船 純

本年6月、山形事務所に着任しました。日本銀行に勤めて30年近くになりますが、東京、京都、シンガポール、パリ、フランクフルトに次いで、6か所目の勤務地となります。当地は初めてですが、歴史と文化の厚みがあり、豊かな自然に囲まれているのが素晴らしいと感じています。山並みが美しく、空が広々として開放感がある風景、コンサートホールや美術館などが身近にあり、地域に根付いた文化芸術活動が盛んなこと、果物をはじめ食べ物が美味しいこと(さくらんぼの芳醇な味と美しさに驚き、東京の家族や友人にも沢山送りました)等々、その魅力を挙げていけばきりがありません。また、京都支店勤務時には京都と滋賀の産業調査を担当していましたが、当地が上方と紅花交易などを通じて深い結びつきがあることを知り、ご縁を感じています。

今から15年以上前、ロンドンに出張した際、イングランド銀行(英国の中央銀行)の博物館を訪れると、“Business as usual”と題した企画展を開催していました。第二次世界大戦中、ドイツ軍によるロンドンや英国全土への空襲が続く状況下でも、展覧会のタイトルが示すとおり、イングランド銀行職員が困難を乗り越えて“通常どおり、変わりなく業務を続ける”ことで、英国中のお金の流通をしっかりと維持し、中央銀行としての役割を果たした様子を、当時の写真やパネルで説明したものでした。私が本展を見たのは、2005年7月のロンドン同時爆破テロが起きて間もない時期だったのですが、目の前で見たロンドン市民の通常どおりの落ち着いた行動ぶりと共に、強く印象に残りました。

最近、当時のことを改めて思い出したのは、山形事務所が1945年8月10日に開設された背景にも、戦時下の危機的な状況があったからです。太平洋戦争末期には、空襲による交通・通信障害から、各地に現金を円滑に流通させるなどの業務遂行に支障を来す恐れが高まったため、日本銀行は事態に対処するため、山形をはじめ各地に拠点の新設しました。それ以降、当地で中央銀行としての役割を果たすべく活動을続けて今年で77年、人間でいえば「喜寿」を迎えました。

日本銀行の役割は、分かりやすく表現すれば、人々がお金を安心して使えるよ

うにすること、と言えます。具体的には、全国どこでも現金が円滑に流通し、預金による受払が安全確実に行われ、物価も安定している状態を実現していくことです。また、物価の安定を実現するための金融政策運営にあたっては、その時々の経済・物価情勢をできるだけ正確に把握することが必要なため、様々な調査活動を行っています。当事務所でも、地元金融機関との間の銀行券の受払を通じて、県内全域における現金の円滑な流通を支えているほか、当地の金融経済に関する調査や、日本銀行の政策・業務に関する情報提供を行っています。

こうした活動を円滑に行うことができているのも、日頃より、当地の金融・経済界や行政をはじめとする皆様から多大なご支援を頂いているおかげと感謝しております。感染症やウクライナ情勢が重石となり厳しい状況が続いていますが、今後とも的確に業務を遂行していくことを通じて、地域経済の発展のために貢献していきたいと思っております。